

## がん対策の推進に関する意見交換会について

愛知県がんセンター研究所  
所長 田島和雄

日本の地域がん登録情報、人口動態統計によりますと、21世紀に入って毎年60万人以上の人たちが新たにがんと診断されており、30万人以上が亡くなっております。その数は2020年までに50%増加するものと推定されております。そして、日本人の二人に一人は何らかのがんに罹る時代がやってきております。がんの罹患数と死亡数を同時に低減していくためには、がんの一次予防と二次予防対策を効率よく推進していく必要があります。その対策の効果を評価するためには精度の高い地域がん登録の情報が不可欠です。

日本人の主ながんの原因として、1) 慢性感染症（腫瘍ウイルスやピロリ菌など）、2) 喫煙・飲酒習慣、3) 食生活・運動習慣の歪み、などが重要であり、私たちの日頃の生活改善や環境操作によりがんの罹患率の低減を図ることができます。愛知県で活用しているがん予防のための日常生活の工夫として五ヶ条の標語にまとめたものを紹介しますと、1) 禁煙・節酒は鬼に健康金棒、2) 節塩料理は健康日本21愛知、3) 緑黄赤の野菜・果物健康信号、4) 多種類少量を取るバランス感覚、5) にこにこ運動30分週2回、になります。

一方、がんの罹患率がこれだけ高くなりますとがん死亡から如何に免れるか、これからはがんの一次予防のみならず、早期の診断・治療によりがんで死なないようにする二次予防が重要であります。一般に、40歳以上の中高年齢を過ぎて一度もがん検診を受けたことのない人は、相対的にがんの発見される率が高くなり、進行がんで見つかる率も高くなります。その結果、がんによる死亡率も高くなります。

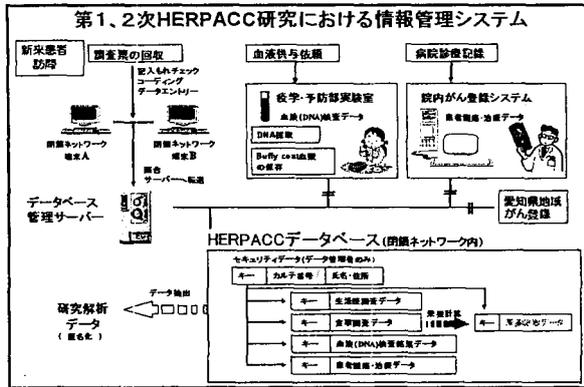
さらに、一度目のがんから生還できても二度目、三度目のがんの危険度に脅かされますから、常にごがん予防が重要になるのです。この数十年間に変貌してきた日本人のがんの流行とその背景要因、さらにごがんの罹患・死亡数を減らしていくためにはどのような工夫が必要か、疫学研究者の立場で解説しながら皆様とともに今後の実質的なごがん対策について考えてみたいと思います。

### 参考資料

- 1) 田島和雄監修 がん予防の最前線（上巻）基礎知識から新戦略へ 昭和堂 2004年
- 2) 同（下巻）最新の研究成果と予防戦略 昭和堂 2004年
- 3) がん予防への案内(<http://www.pref.aichi.jp/cancer-center>)







### 主要部位のがんの要因

～疫学研究から～

部位	喫煙	飲酒	緑黄色野菜不足	脂肪過剰	運動不足	その他の危険要因	その他の防衛要因
食道	●	●				ピロリ菌感染 塩分過剰摂取	
胃	●	●				慢性大腸炎	生鮮魚
結腸直腸		▲		▲	▲	ウイルス感染(HCV, HBV)	
肝	▲					閉経後肥満	生鮮魚
肺	●					閉経後肥満	
前立腺						ウイルス感染(HPV)	
乳房		▲					
子宮体		▲					
子宮頸	▲	▲					

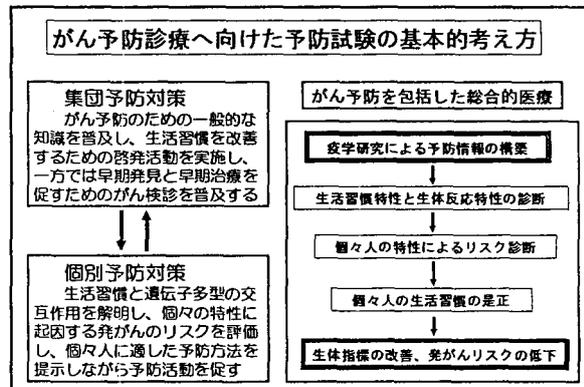
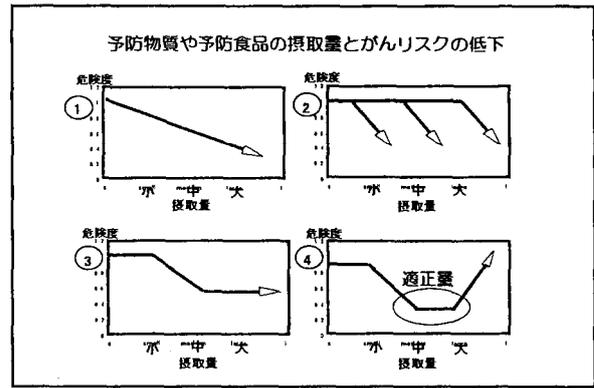
● 確かに関連が有る ▲ 関連する確率が高い

### がん化学予防の失敗例から学んだこと

ベータカロテンの多量投与例の場合

**ATBC Study (Finland)**  
 (Alpha-Tocopherol Beta Carotene Cancer Prevention study)  
 1985-1993年、フィンランドの男性喫煙者29,133名、βカロテン20mg、VitE50mgを連日投与、5-8年の追跡でβカロテン投与群で肺がんの罹患率が18%上昇

**CARET (USA)** (Carotene and Retinol Efficacy Trial)  
 1988-1998年、米国喫煙者・アスベスト暴露者18,314名、βカロテン30mg、レチノール25,000IUを連日投与、平均4年間の追跡で投与群の肺がん罹患率が28%上昇



### がん予防の最前線

序章 発がんの仕組み、疫学の基本概念

第一章 日本と世界のがん

第二章 がんの原因と予防方法

第三章 がん予防の新戦略

下部の内容目録

序章: 新しい疫学の世界

第1章: コーホート研究による日本人のがんリスク

第2章: 生活習慣と遺伝子多型によるがんのリスク

第3章: 遺伝子検査による遺伝性疾患とがん

第4章: がんの予防と早期発見

第5章: がんの化学予防

www.ranikiraku.com

## 厚生労働省がん対策の推進に関する意見交換会資料その1

## 〈あけぼの会〉の目的と実績

1978年10月発足 現在会員数4500、支部40都道府県 顧問医72名

会の2大目的

- ①乳がん患者サポート（患者同士の助け合い）
- ②早期発見啓発運動(体験者の立場から一般女性に向けてメッセージを送る)

目的①のために

- ニュースレターなど印刷物を通じて会員に情報発信
- 講演会、相談会、懇親会など本部、支部単位で開催
- 電話相談は本部、支部で常時受ける
- ABCSS (Akebono Breast Cancer Support Service) 病院訪問ボランティア  
(1994年スタート、現在8県の10病院で実施)

入院中の患者を退院する前に訪問して、退院後の社会復帰に関する疑問や不安に答えるボランティアシステム。訪問するのはあけぼの会会員で、所定の研修を受けて適任と認められた人。病院側の理解、特にナースの協力がないと実現できないので、このサービスがなかなか全国的に広がらない。アメリカでは全米のほぼ全病院で受け入れていて、このサービスを受けないと退院してはならないと決めている病院もあるくらい重要視されている。

## ●「私のカルテ」

自分の正確な治療記録を持つ。これはセカンドオピニオンを得たいときや引越しなどで転院をするとき、また再発したときなどに役に立つ。「カルテ開示」が叫ばれているが、医師のカルテでは素人はわからないので、患者が自分で理解できる治療記録の必要性を感じて作成した。医師側からも好評を得ていて、医師自ら進んで記入してくれることもある。

## ●「乳がんディクショナリー」

医療専門用語を患者がわかる言葉で解説したもの。これも医師の説明でわからなかった専門用語を自分で知るための解説書でそのわかりやすさが医療側からも好評を得ていて、先般発刊された「乳がん診療ガイドラインの解説」(金原出版)に随所で引用されている。

●患者の早期社会復帰を支援することが大事なので、そのための具体策の一つとして有意義なABCSS(病院訪問ボランティア)の普及推進に理解と協力がほしい。

●「インフォームドコンセント」や「カルテ開示」が叫ばれて久しいが、それには患者が十分な知識を持っていなければならないので、あけぼの会として実地的に役立つ資料を作成、提供している。近い将来、このような情報が患者すべてに行き渡るように国が自治体が無料で小冊子などの配布をしてくれることが望ましい。

●担当医に聞けない不安や疑問に対して、全国的に患者会のボランティアが電話相談を受けているのが現状。社会が必要とする行為を長年、陽が当たらない場所で、善意で続けるのは大変な労苦なので、これに対しても認知と敬意を払ってほしい。

目的②のために

●母の日キャンペーン

女性、特に子供を持つ母親は子育ての責任があるので、乳がんで死んで子供にかわいそうな思いをさせないで、の発想から生まれたのが「母の日キャンペーン」。今年で22回続いている、全国支部が主体になって46箇所で開催されている。

- ・近年は県や市の自治体からの理解協力を得ていて、検診車の無料提供も今年は6県であった。
- ・ポケットティッシュは5万個配布。ティッシュのほか、揃いのTシャツやブルゾン作成の経費は寄付金でまかなっている。
- ・配布するのは会員有志。

●「乳がん検診の日」設定

2006年からあけぼの会とエステローダー(化粧品会社)の共同提案で2006年10月1日から毎年10月1日を「乳がん検診の日」とすることが認定された。これはまだ行き渡っていない「マンモグラフィー検診の重要性」を強調するためにスタートさせた。

●「乳がん月間」協力医のリスト公表

10月乳がん月間中、乳がんを心配していて専門医を探している人に向けて、全国の専門医で協力を申し出ている全国の医師団のリストを作成して公表、月間中に専門医を訪ねるよう勧めている。協力医にはポスターや配布用ピンクリボンなどを提供している。

●東京タワーライトアップ

10月1日、東京タワーをピンクにライトアップして、乳がんについて喚起する目的でエステローダー社とあけぼの会が始めて今年で6回目を実施した。世界的有名建造物も同時にライトアップされる世界的な行事で、国内でもこの行事が定着して来ている。

●ABCEF (Akebono Breast Cancer Education Force)

教育部隊 (2006年正式スタート、今までも要請があれば受けていた)

会社・保健所・学校・市町村役所などの集まりで早期発見・早期治療の大切さ・自己検診の方法などを伝える。

●このように、私たちは体験者の立場から、一般女性が抵抗なく検診に行けるように、やさしく説得する作戦を考えて実施している。ただ「検診に行くように」というより、なぜ行かなければならないか、どこへ行けばよいか、具体的に示唆することが重要と考える。

●参考資料：①「あけぼの会のご案内」、②ニュースレターNo.111、③「ABCSSパンフレット」、④母の日キャンペーン用ポケットティッシュ、⑤小冊子「私のカルテ」、⑥「乳がんディクショナリー」



